

基本施策1		
GW課題	生涯学習活動の最重要環境ないし基盤である図書館について事業がないのは問題である。 リクエストが特定のテーマに集中しているところが市民ニーズではないか。 課題がいくつも出ているが、その課題への対応を検討し解消していくことが重要。 子ども・若者に対する施策が入っていないように見えるが、どう考えていくのか。	
施策1	新たな参加を促すための学習環境づくり【重点施策】	コロナの影響
	<ul style="list-style-type: none"> 多様な人材の確保が課題となっている。 企画力向上、市民の関心にあったテーマ設定が求められる。 初学者向けの講座の開講。 地域の伝統文化を保存・継承していくには広報手段を広げ知名度向上に努める必要がある。 	地域の伝統文化を保存・継承はコロナの影響を大きく受けた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 市民の学習ニーズに対応し講師活動できる多様な人材確保が求められている。 市民のスポーツニーズに対応できる運営、教室等の充実。利用の安全性の確保。 地区公民館講座は市民ニーズを反映した講座にするため、企画力の向上が求められる。 地区公民館講座は予算額が削減されていくなかで、講座内容や実施形態の見直しが必要である。 憲法講演会の内容が専門的で初学者には難しく、参加者数が伸び悩んでいる。 多様な講座を開設しているがリクエストは特定のテーマに集中する傾向があり、市民の関心にあったテーマの設定や制度の周知が求められる。 生涯学習サポートは、相談・紹介、支援・調整が重要になっており、常時相談に応じることのできる人材の確保が求められる。 府中囃子の保存・継承には、転入者を含む地域住民の参加意識の醸成が課題。知名度向上のために広報手段を広げる必要がある。 武蔵国府太鼓の知名度向上が課題、広報手段を広げる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> △：やや影響を受けた △：やや影響を受けた △：やや影響を受けた △：やや影響を受けた △：やや影響を受けた △：やや影響を受けた △：やや影響を受けた ○：大きく影響を受けた ○：大きく影響を受けた
GW課題	<p>幼児小学生向け水泳教室は天候に左右されない水泳指導の場が大変ありがたく盛況だったが、今後市営のスイミング教室がなくなるのが残念。</p> <p>スポーツで障害者に対しての取組が見えない。</p> <p>多様性の講義は必要と思うが専門的に深く学ぶ場の提供よりも「誰もが学びやすい」入口で計画してはどうか。趣味実用講座など講座内容も必要である。</p> <p>生涯学習ファシリテーターの活用が方針変更により活用されていないにでないか。</p> <p>市職員の出前講座は子どもたちはじめとても有益であると思うので、職員の過度な負担にならないよう継続して欲しい。</p> <p>武蔵国府太鼓が郷土芸能という認識はまだまだ市民に浸透していないと思われ継続した広報が課題。音楽専科の教員の希望で体験会を実施したが、予算化はあるのか。</p>	
施策2	多様な市民層に合わせた学習環境づくり	コロナの影響
	<ul style="list-style-type: none"> 講座等の対象者に合わせた内容が求められている。 毎年同じような内容の繰り返しになりがちである。 市民ニーズを講座内容等に反映させるには予算の増額も必要である。 	日本語学習会はコロナの影響を大きく受けた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 保護者に対する家庭教育という観点で行う家庭教育学級の意義に基づいた企画が求められる。 あすなろ学級は、毎年同じような内容になりがちであり、プログラムの工夫が必要である。対象者を広げたり、地域社会との関りを重視した運営が求められる。 地区公民館講座は市民ニーズを反映した講座にするため、企画力の向上が求められる。 地区公民館講座は予算額が削減されていくなかで、講座内容や実施形態の見直しが必要である。 憲法講演会の内容が専門的で初学者には難しく、参加者数が伸び悩んでいる。 講堂講座は高齢者を主な対象とする内容のものが多く、けやき寿学園との違いが見出しにくく、けやき寿学園の位置づけを見直す必要がある。 多様な講座を開設しているがリクエストは特定のテーマに集中する傾向があり、市民の関心にあったテーマの設定や制度の周知が求められる。 日本語学習会参加希望者は増加しているが、指導役ボランティアが確保できず新たな受入れが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> △：やや影響を受けた △：やや影響を受けた △：やや影響を受けた △：やや影響を受けた △：やや影響を受けた △：やや影響を受けた △：やや影響を受けた ○：大きく影響を受けた

GW 課題	講座の減少に加えて子育て世代への認知度がそもそも少ないのではないか。 けやき寿学級について、高齢者として60歳以上という区切りは時代にマッチしていないように思う。後期高齢者をターゲットにすべきではないか。 日本語学習の指導役はボランティアに頼らず、手当を支払って専門家をお願いしてはどうか。 外国籍を母語とする児童の支援にボランティアは欠かせないので、国際交流サロンで学習を終了した方に学校での支援をお願いしたい。
----------	--

施策3	気軽に参加できる学習環境づくり	コロナの影響
	<ul style="list-style-type: none"> ・若年層が参加しやすい環境整備の工夫が求められる。 ・活動できる人材の確保と活躍の場が求められる。 	コロナにより集団での講座が開催できなくなりオンライン配信やなどを行う工夫をした
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の学習ニーズに対応し講師活動できる多様な人材確保が求められている。 ・市民のスポーツニーズに対応できる運営、教室等の充実。利用の安全性の確保。 ・各地域体育館で協力者数に差があり、不足している館では協力者の負担が大きい。 ・若年層が参加しやすい環境整備の工夫が求められている。「元気いっぱいサポーターリーダー」の活躍の場の検討が必要。 ・各展示会のテーマ策定、長期計画、予算獲得が課題となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> △：やや影響を受けた △：やや影響を受けた ×：影響を受けなかった ○：大きく影響を受けた ×：影響を受けなかった
GW 課題	<p>地域体育館での協力者の呼び込みが不足していたのではないか。</p> <p>地域体育館協力者数の差は平準化できないこと自体が課題ではないか。</p> <p>みんなのスポーツdayでは、文化センターで実施したトランポリンやボッチャは子どもたちに大人気であったので、これからも継続してほしい。</p> <p>若年層の参加を増やしていくには、若者のニーズが高い健康プラス美容を取り入れてはどうか。</p> <p>元気いっぱいサポーターリーダーの活躍の場は、あるのかないのか。検討の中身がみえていない。</p> <p>「展示のテーマ策定、長期計画、予算確保が課題」など当然やるべきことが課題と言っていることが課題ではないか。</p>	

基本施策2	
GW課題	現在、乱立しているファシリテーター、サポーター、ボランティア、ジュニアリーダー、コムスポ協力者、全体の人材を、統合し調整する機能が必要ではないか。

施策1	生涯学習と地域還元をつなげる事業の実施【重点施策】	コロナの影響
	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習ファシリテーターの地域での活動を支援する仕組みや活動の場を広げる工夫が求められる。 ・生涯学習サポーターの登録、生涯学習ボランティア入門講座受講者の生涯学習ボランティア団体への登録が進んでいない。 ・生涯学習フェスティバルはコロナの影響で一時縮小した参加者が回復基調にあり、今後は若者など幅広い世代の参加が期待される。 ・オンライン事業やインターネットでの情報発信が求められる。 	大きく影響を受けた事業はない。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習ファシリテーターによる市民企画講座などに取り組んでいるが、地域での活動についての支援の仕組みはできておらず、活動の場を広げる工夫が求められる。 ・生涯学習ファシリテーター講座修了生を、生涯学習サポーターの登録につなげる工夫が必要である。 ・生涯学習ボランティア入門講座受講者が、生涯学習ボランティア団体への登録にはあまり結びついていないため、講座修了後の活動について考える必要がある。 ・生涯学習ボランティアを講師とした講座には、特定の技能を持つ生涯学習ボランティアの確保が必要であり、ボランティア登録者の増員が求められる。 ・生涯学習フェスティバルは、高齢者と家族連れの来場が多く、若者など幅広い世代の参加が期待される。オンライン事業はほぼなく、インターネットでの情報発信の充実も課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ×：影響を受けなかった ×：影響を受けなかった ×：影響を受けなかった △：やや影響を受けた △：やや影響を受けた

GW 課題	生涯学習ファシリテーターの課題が「地域での活動についての仕組みができておらず」とあるが、ファシリテーターの位置づけとともに、地域のソーシャルキャピタルの向上に焦点を当てて考えるべきではないか。 ファシリテーター、サポーター、ボランティアを合わせた全体の見直しが必要。生涯学習ファシリテーターをなぜ養成するのか根本的に考え直す必要がある、まずは活躍の場を考えたうえでの養成ではないのか。 市民の学習ニーズと市内の講師人材（ファシリテーター、サポーター、ボランティア）がうまくマッチングできていないのではないのか。 「学び直し」をわかっていない人もいると思うので、わかりやすく説明した方がいいのではないのか。学び直し後の活動をアウトプットできる場がたくさんあるのではないのか。
----------	---

施策2	生涯学習を地域づくりにつなげる人材の育成や登用	コロナの影響
	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習ファシリテーターの地域での活動についての支援の仕組みが求められる。 生涯学習サポーターの登録を進め、活動機会の提供など検討する必要がある。 行政側も職員研修やスケジュール調整などに努める必要がある。 	ジュニアリーダーやお話ボランティアの活動はコロナの影響を受けた
課題	・生涯学習ファシリテーターによる市民企画講座などに取り組んでいるが、地域での活動についての支援の仕組みはできておらず、活動の場を広げる工夫が求められる。	×：影響を受けなかった
	・生涯学習ファシリテーター講座修了生を、生涯学習サポーターの登録につなげる工夫が必要である。	×：影響を受けなかった
	・生涯学習ボランティア入門講座受講者が、生涯学習ボランティア団体への登録にはあまり結びついていないため、講座修了後の活動について考える必要がある。	×：影響を受けなかった
	・生涯学習センターの講座事業は指定管理者が行うため、成果の見えにくい市民の企画提案を積極的に取り入れることに難しさがある。現在の生涯学習センターにおいて講座を行うことが市民団体にとって魅力があるとは限らない。	×：影響を受けなかった
	・ふちゅうカレッジ100単位は、生涯学習に参加する意欲の喚起につながる新たな制度の検討を必要とする。	△：やや影響を受けた
	・ジュニアリーダー講習会を実施できる新たな青少年委員の育成が必要とされる。	○：大きく影響を受けた
	・対象者の固定化やコミスポ協力者の高齢化等により参加率が向上していない。	×：影響を受けなかった
<ul style="list-style-type: none"> 「ステップアップ講座」については、毎回新しい講師を探すことにハードルがあり、職員が外部の研修を受け、講師の候補を探す必要がある。 「読み聞かせ講習会」については、多様な市民のニーズを同時に満たすことが難しいが、イベントスケジュールの調整や、予算と職員人員には制限があり、講座の種類増加は現状難しい。 	○：大きく影響を受けた	
・工夫しているが希望者が多い事業においては、ボランティアの活動機会を十分に確保できない場合がある。	△：やや影響を受けた	
GW 課題	市民企画講座は、事業スキームを見直し、もっと市民参加が進む内容に更新していく必要がある。 市民企画は市民のニーズをマッチさせるために、ニーズから掘り起こす必要があるのではないか。 地域やコミュニティの問題解決のための学びを支援するための企画政策が必要である。地域コミュニティ課や協働共創推進課との連携を考えるべきではないか。 ふちゅうカレッジは機能していないので、コンセプトを練り直す必要があるのではないか。例えば、大学と連携するなどより高度で専門的知識への入り口とする、シングルマザー対象リスキリング講座など。 ジュニアリーダー講座は参加者が集まっていないのではないか、ジュニアリーダーの育成には有名な講師が必要と思われる。名称見直しや青少年委員制度の抜本的見直しなど事業内容の見直しが必要。 ボランティアは小・中学校でも講習会は必要だと思う。 読み聞かせ講座は、図書館・いきいきプラザ・プラッツなどいろいろな所で実施されているので、相互の情報共有が必要。 美術館ボランティアに対してハードルを低くして受け入れを多くしてはどうか。	

施策3 市民が活躍できる場の拡大		コロナの影響
<ul style="list-style-type: none"> 市民ニーズと合致した講座や自宅からも参加できるオンラインによる講座など多くの人が参加できる環境が求められる。 市民が活動できる場や企画の検討が必要。 		市民・団体の活動は大きくコロナの影響を受けた
課題	・実技講座は市民に一定のニーズがあるが、生涯学習ボランティアの企画運営による講座が市民の関心やニーズと合致するとは限らない。	△：やや影響を受けた
	・生涯学習フェスティバルは、高齢者と家族連れの来場が多く、若者など幅広い世代の参加が期待される。オンライン事業はほぼなく、インターネットでの情報発信の充実も課題である。	△：やや影響を受けた
	・プラッツを利用したことがない市民や団体、企業等に対して、場と企画の両面の情報発信に注力し、さらに市民協働が発展できるようコーディネートに努めることが求められる。	○：大きく影響を受けた
	・ボランティア活動を希望する人材と学校が求める支援内容や時期のマッチングに課題がある。	△：やや影響を受けた
	・市民ニーズを的確に把握し、既存の教室のあり方や新たな教室の実施について検討する必要がある。	×：影響を受けなかった
GW課題	市民活動が「特定の市民」活動になっているのではないか、プラッツの使い方も含めて見直しが必要。 学校支援ボランティアは保護者にも協力依頼をして欲しい。 現在、学校支援は「地域学校協力活動」となっており、学校と地域の関係は双方向が求められている。その観点からの見直しが必要なのではないか。	

基本施策3	
GW課題	総じて課題を課題のままにしてあり、「検討」「必要」という言葉で片づけている。 図書館は生涯学習の環境であり基盤であることが欠けている。きちんと位置付けるべきではないか。

施策1 生涯学習の広報の強化【重点施策】		コロナの影響
<ul style="list-style-type: none"> 市のホームページと生涯学習センターのウェブサイトの更なる情報の充実と利便性の向上、SNSでの積極的発信などが課題である。 外国人の方に向けた各種案内等の多言語翻訳をさらに進める必要がある。 施設間連絡会議の体制を構築する必要がある。 		大きく影響を受けた事業はない
課題	・今後も継続して各媒体での情報発信に努める。	×：影響を受けなかった
	・市のホームページと生涯学習センターのウェブサイトの更なる情報の充実と利便性の向上、SNSでの積極的な発信などが課題である。	×：影響を受けなかった
	・各課が作成する手続き案内等には、日本語のみでしか作成されていないものがあるため、引き続き、各課からの依頼に基づき多言語翻訳を進めていく。	×：影響を受けなかった
	・施設間連絡会議で生涯学習事業を共同で推進する体制にはなっておらず、市民の生涯学習を推進するための連携関係の構築が求められる。	×：影響を受けなかった
GW課題	広報PRだけでは伝わらない、興味を持つような「いつどこで何を」をはっきりと持ち出さないと入り口で止まってしまう。 子育て世代や若年層へのインスタグラム、X等SNSでの情報提供強化が課題ではないか。一方、広報ふちゅうなどの紙媒体も良さがある。 市内施設各所で市ホームページを見ることができ環境整備をしてはどうか。 外国語での情報提供が手続きの案内が中心では、外国人は生涯学習関係の情報を得ることができない。 プラッツは生涯学習関連施設ではないが、イベント情報・市民ニーズの動向などの共有は必要ではないか。	

施策2 施設と事業との連携		コロナの影響
<ul style="list-style-type: none"> 紙媒体とあわせて電子的媒体での発信強化が必要である。 市民の関心に合致した魅力ある講座の企画が求められる。 		大きく影響を受けた事業はない
課題	・紙媒体とあわせて電子的媒体での発信強化が必要である。	×：影響を受けなかった
	・専門的な内容の大学連携講座は参加者が減少している。大学側でも公開講座が一般化しており、市内大学の教員の講義が聴けるといっただけでは魅力が少なくなっている。	×：影響を受けなかった
	・今後も継続して各媒体での情報発信に努める。	×：影響を受けなかった

GW 課題	生涯学習情報誌はどのように配布されているのか。情報弱者の高齢者や子育て世代へは届かずに、いつも生涯学習に参加している高齢者や意識の高い市民だけが見るものになっていないか。 紙媒体を増やさないために、生涯学習だよりを市広報と連携できないか。デジタル化推進の中で紙媒体発行を目標とするのはいかがなものか。 大学との連携を拡大してはどうか、例えば、大学と連携協定を結んだり、連携した大学内の施設を見る機会を提供したりする。また、大学生の地域参加を促す取組も必要である。
----------	---

施策3 生涯学習の推進機能の充実	コロナの影響
<ul style="list-style-type: none"> ・ 常時相談に応じることのできる人材の確保が求められる。 ・ 施設間連絡会議の体制を構築する必要がある。 	大きく影響を受けた事業はない

課題	・ 生涯学習サポートは、相談・紹介、支援・調整が重要になっており、常時相談に応じることのできる人材の確保が求められる。	△：やや影響を受けた
	・ 施設間連絡会議は、市民の生涯学習を推進するための連携関係の構築について検討の余地がある。	×：影響を受けなかった

施策4 安全・安心に利用できる施設的环境づくり	コロナの影響
<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民が安全・安心に講座などに参加できる環境整備と周知に努める必要がある。 ・ 子どもの安全・安心な居場所の確保が求められる。 	多くの保護者や子どもが集まる事業はコロナの影響が大きかった

課題	・ 託児を必要とする団体への周知・情報提供はできていない。	△：やや影響を受けた
	・ 児童館サークルは、コロナによる活動休止期間の後、参加人数が減少傾向にあるため、広報活動等を行い、活動を盛り上げるよう工夫する必要がある。	○：大きく影響を受けた
	・ 学童クラブとの連携を図りながら、今後も放課後の児童の安全で安心な居場所の確保を行う。	○：大きく影響を受けた

GW 課題	子育て世代への生涯学習の周知が足りていないのではないか。 児童館の充実を図るには、他自治体で実施事例のある中高生向け大型児童館（ゆう杉並,調布市CAPSなど）の構想も取り入れるべきではないか。 児童館と小学校との連携をより深くすることが全市的に必要ではないか。 市の考え方は、乳幼児は児童館、小学生は学童保育、放課後子ども教室となっているように見える。 放課後子ども教室と学童保育との区別が理解できない。 各学校で運営体制や理解協力が差があると感じるので、市でガイドラインを作成することは必要だと思う。
----------	--